



Title	市町村での機能訓練事業の進め方
Author(s)	多田羅, 浩三
Citation	大阪公衆衛生. 1988, 53, p. 2-3
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/83721
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

機能訓練事業事例発表会

「市町村での機能訓練事業の進め方」

(財)大阪公衆衛生協会保健計画部会長

多田 羅 浩 三

老人保健事業のなかに健康診査や健康教育にあわせて、機能訓練や訪問指導が含まれたことは非常に画期的なことである。このことによって、診査や教育という事業に加え、いわゆるケアというものが、市町村の保健事業の大きな柱として陽の目を見るようになった。21世紀に向かい「Health for all」を目指す保健事業にとって、不可欠な基盤が形成されたといえる。



地域における機能訓練事業は、老人保健法施行以前も、昭和46年に始まった在宅老人機能回復訓練事業や、昭和53年に開始された老人保健医療総合対策開発事業のなかなどで、数多くの貴重な経験がつまれてきていたけれども、主として市町村の福祉関連部門においてとりくまれていた。そのため、老人保健法施行にともない保健事業としても実施することとなったものの、市町村の保健部門では、当初一定のまとまりがあったのではないかと考えられる。

また、この事業の実施にあたっては、対象者は医療終了後のものとされていることなどがあり、医療との関連がきわめて深い事業であることや、スタッフの体制が市町村で実施するには十分でなかったことなど、実際の運営にあたっては様々な難問が多くあり、他の保健事業にくらべて、とりくみの遅れがめだっ

たというのが実状であろう。それでも各市町村ではそれぞれの実状に合わせ、そのやり方や内容を工夫して事業を進めてきており、次第に実績が積み重ねられてきて、最近では、各市町村において、すばらしい成果が上がってくるようになってきている。

そこで、今回このような状況をもとに、保健計画部会では、この事業が今後一層推進されることを期待して、すでに様々な工夫を凝らして、明るく楽しく事業を進めているいくつかの市町村の登場を願い、各市町村が互いの経験や意見の交流を深めあえるようにと考えて事例発表会を企画してみた。

会場としては、新しくできた吹田市保健センターを利用させてもらい、大都市において機能訓練事業を活発に推進している事例として大阪市浪速保健所、堺市鳳保健所、東大阪市西保健所、また一般市町村からの事例として四条畷市、八尾市、吹田市の計6市から現在の実施状況について報告してもらった。



それぞれスライドを用いて訓練風景を提示してもらったこともあり、訓練状況や訓練を受けているケースの表情もよく伝わってきて、短時間ではあったが極めて印象深い発表会とすることができた。

各市の事業の実施状況は、4ページ以降抄録を載せているが、これらの発表から、現在

の機能訓練の実施状況や課題について、いくつか考えてみる。

まず、実施時期として昭和61年頃が多く、実施後間もないところが多かった。

訓練内容は、起き上がりや歩行などの移動動作や日常生活動作を行ったり、関節可動域の拡大などの訓練を行っているほか、集団で行う作業療法や、レクリエーション、スポーツを取り入れているところが多く、中には体操、ヨガなどを行っているところもあった。さらに、地域とのつながりを考えて、保育園、老人会、各種サークルとの交流を取り入れてるところもあった。また、家族の交流の場を持ったり、家族やボランティア向けに教室を開催し、訓練方法の指導を行っているところもあった。

各市とも、機能訓練事業をいわゆる社会的リハビリとして実施している状況が、よくうかがうことができた。

利用経路としては、全体として保健婦活動から結び付いたものが多い反面、まだ医師会、本人や家族自身からの申請が少なく、また関係団体活動や関係機関との連携が図られているところも少なく、今後のこの事業の各方面への普及啓発が望まれる。

機能訓練事業を実施しての効果という面では、利用者の表情が明るく豊かになるなどの心理的効果や生活範囲の拡大、生活リズム保持等の社会性の効果が、いずれの報告でも指摘されていた。

集団で訓練することは、仲間づくりになり、個人で行うより相互の励まし、刺激し合うことなどにより訓練意欲、訓練効果が上がっているようであった。

しかし、地域的にこの事業を保健事業として実施していくうえでの効果といった面を考えると、対象者の把握についても脳卒中登録などとのつながりを、まだ考えているところはなかったが、今後必要となるであろうし、施設内訓練面についても対象者のきめ細かい

ニーズに合わせて内容を充実、細分化させることも必要となろう。また訓練終了後の訓練の受け皿や、訓練継続のための援助体制についての検討や、必要な対象者が参加できるようにする通所手段についての検討など、いくつかの課題がフロアから上げられていた。



今回の事例発表会での報告内容から判断すると、医療機関での機能訓練とは異なった市町村での機能訓練事業の形、特徴が要約できてきているような印象を受けた。また予想以上に、参加者も、スタッフも明るく楽しい雰囲気のもとに実施されており、着実な進展がみられ、今後の発展が十分に期待できそうであった。また、今回の発表スライドを通じて、まだ実施できていない市町村でも、機能訓練とはどんなものであるか理解できたと思うし、特に難しいものでなく、それぞれのやり方で実施できるとの印象を持つことができたのではないと思われる。

最後に、保健事業としての機能訓練は、まだ産声を上げたばかりであるが、平均寿命の延長や、医療の進歩などにより、地域でのこの事業に対する期待は強くなってきて、高齢化社会において、健やかな老後を送るうえで最も基本的な保健事業となって行くと考えられ、保健計画部会では今後またこのような機会を設けたいと考えている。

今回報告していただいた市、および発表者に感謝し、今回の機能訓練事例発表会の序文とさせていただきます。